

『一緒に大きい組になろう』 4歳児 2月 伏見こども園

子どもの姿

「カブトムシの幼虫、大きくなってかなあ」A君が言うのを聞いて、Bくんが「前みたいに、みんなで見てみたい」と保育者に伝えにきました。「本当やね。大きくなってかな」と保育者は飼育ケースを見やすい場所に運ぶと、子どもたちが集まってきました。昨年度から命がつながり、1学期に成虫になったカブトムシは死んでしまいましたが、9月と11月頃に飼育ケースの中を確かめた時には卵から幼虫がかえっていたことを思い出し「3匹、幼虫いたよな」「生きてるかな」とつぶやく子ども達でした。飼育ケースの土を出すと、「ここにいる」「あ、ここにも」「なんか元気ないな。あんまり動かへん」「大丈夫かな」と、出てきた幼虫を見て心配しています。「外は寒いし、眠っていたのかもしれないね」と保育者が言うと「暖かくなったら動き出すかな」と幼虫を見ています。「みんなが大きい組さんになったら、カブトムシに変身するかな」と保育者が言うと「え!大きい組さんでもお世話できるの?」と子ども達の表情がパツと明るくなりました。「一緒に大きい組になろう」と幼虫に話しかけながら「寒そうだから早く土の中に戻してあげよう」と飼育ケースに戻しました。昨年度から繋いでいるカブトムシの命のバトンと共に進級することを楽しみにしている子ども達でした。

この場面での子どもの育ちや学び

幼虫、大きくなってかな?
(想像)(期待)(ワクワク)

動かないね。生きてるのかな?
(心配)(比べる)

一緒に大きい組になろうね
(期待)(楽しみ)(大切に)



定期的に土の中の様子を見てきたことで、幼虫の大きさを想像している。

以前見た時には、土の上にいる幼虫はよく動き、土の中に潜っていく様子が見られたのに、動きが鈍く潜っていく様子が見られず、違いに気付いたり、なぜだろうと考えたりしている。

蛹や成虫になっていく過程を、自分達の成長と合わせて、大きくなることを楽しみにしている。

保育者の思い

- ・カブトムシの成虫の命は約1ヶ月から3ヶ月と言われています。夏休みとも重なり、子ども達にとって成虫の世話をすることは短いですが、幼虫から蛹、成虫へと姿を変えていくカブトムシの様子を楽しみに見てきました。成虫は死んでしまいましたが、新しい命を残しているということを目の当たりにし、子ども達は悲しさの中に命のつながりを感じることができているのではないのでしょうか。命の尊さを感じ大切にすることを大切にしたいと思います。
- ・土の中が見えないからこそ、子どもたちの想像や期待が膨らんでいくのだと思いました。「どうなっているのかな」と想像し考えることの楽しさを感じてほしいと思います。
- ・自分たちが進級し大きくなるということと、カブトムシの成長していくことへの期待感が重なったのだと思います。「一緒に」という言葉が子どもたちの喜びや安心感につながっているのだと思います。

家庭だったら・・・

普段目に見えない土の中や海の底や宇宙など、子ども達の周りには不思議だと感じたり、どうなっているのかと考えることに溢れています。想像したり、考えたりする子どもからはどんな言葉が聞けるでしょう。大人が当たり前と思っていることも、子どもは知らないことがばかり。大人も一緒にワクワクしながら、子どもの感性を育てていきたいですね。